

〔資 料〕

多分野連携教育と課外活動が
大学生のキャリア・アダプタビリティに及ぼす影響

河野 喬¹・西尾 明²・美越 克己²・河内 理²・磯邊 省三¹
鬼塚 純玲¹・加地 信幸¹・工藤 隆治¹・白石 智也¹・高田 康史¹
武田 守弘¹・東川 安雄¹・房野 真也¹・前田 一篤¹・升本 絢也¹
松尾 晋典¹・村上須賀子¹・森本 吾郎¹・渡邊 満¹・山崎 昌廣¹

Effects of Multidisciplinary Education and Extracurricular Activities on
Career Adaptability of University Students.

Takashi KAWANO, Akira NISHIO, Katsumi MINOKOSHI, Osamu KOCHI, Shozo ISOBE,
Sumire ONIZUKA, Nobuyuki KAJI, Ryuji KUDO, Tomoya SHIRAISHI, Yasufumi TAKATA,
Morihiro TAKEDA, Yasuo HIGASHIKAWA, Shinya BONO, Kazuma MAEDA,
Junya MASUMOTO, Shinsuke MATSUO, Sugako MURAKAMI, Goro MORIKI,
Michiru WATANABE and Masahiro YAMASAKI

Abstract

We analyzed the effects of grade, gender, and extracurricular activities on career adaptability among students at the Faculty of Human Health Science in order to understand and elucidate the career development of university students. We distributed a questionnaire to 509 students (333 responded, response rate: 65.4%). A factorial analysis of variance was performed to evaluate career adaptability based on grade type. However, Career adaptability of grade 2 students was significantly lower than others. Furthermore, career adaptability scores were evaluated using the Career Adapt-Abilities Scale (CA), Career Resilience Scale (CR), and Career Indecision Scale (CI). Multiple regression analysis with CA, CR, and CI scores as dependent variables, while controlling for grade, gender, and extracurricular activities, revealed that extracurricular activities are a significant predictor of CA, CR, and CI sub-scales. Consequently, our study demonstrates that extracurricular activities based on multidisciplinary education are an effective factor to facilitate the career adaptability development of the target population. It is also pivotal to consider support that caters to the needs of university students to aid them in career development.

Key words:

career adaptability (キャリア・アダプタビリティ), *career resilience* (キャリア・レジリエンス), *career indecision* (キャリア不決断), *university students* (大学生), *extracurricular activities* (課外活動)

¹ 広島文化学園大学 人間健康学部 (Faculty of Human Health Science, Hiroshima Bunka Gakuen University)

² 広島文化学園大学 広島 坂キャンパス キャリアセンター

(Hiroshima Saka Campus Career Center, Hiroshima Bunka Gakuen University)

1. 序論

大学における就職支援は、「人生100年時代」を迎えて、就職率100%をめざすだけでなく、学生のキャリア開発を意図したものへと変化している。キャリア (career) とは、「時を超えて展開する仕事経験のつながり」(Arthur et al., 1989) を意味する概念であり、日本では、経歴、経験、発展さらには関連した職務の連鎖等と表現され、時間的持続性ないし継続性を持った概念として用いられている(職業能力開発局, 2002)。グローバル化やAIが雇用に及ぼす影響、生涯現役時代の到来により、積極的に転職やキャリア・チェンジを行う人だけでなく、一つの組織で着実なキャリアを歩もうとする人であっても、多くの選択の機会に直面することが指摘される(北村, 2021)。学生には、環境ないし時代への適応性 (adaptability) が求められていることから、大学就職・キャリア支援部局において学生の適応性をいかに高めるかが議論され、様々な実践が行われている。近年、キャリア支援実践の評価において注目を集めているものに、キャリア・アダプタビリティ (Career Adaptability: CA) がある。CAとは、現在もしくは差し迫ったキャリア上の発達課題、移行、トラウマに対処するための心理的資源を意味する概念(北村, 2021)であり、Savickas & Porfeli (2012) によって国際的尺度 (Career Adapt-Abilities Scale; CAAS 2.0) が開発されたことで、この尺度を用いた実践研究が近年さかんに行われるようになってきている。

また、キャリアを形成するためには、環境や役割の変化に直面した際に、それを克服する力を併せて身につける必要がある。そのような力を意味するキャリアレジリエンス (Career Resilience: CR) は、「キャリア形成を脅かすリスクに直面した時、それに対処してキャリア形成を促す働きをする心理的特性」(児玉, 2015) とされ、この力が強い場合には、キャリア形成の度合いが高い、キャリア形成上のリスク要因によるネガティブな影響を減少させる、といった二つの働きがあるこ

とが指摘されている(児玉, 2015)。

しかしながら、就職・キャリア支援の現場では、キャリア開発のスタートラインである「自ら意思決定を行うことの必要性」を認識するまでに、時間がかかってしまう学生が少なくない。この必要性の自覚は、Niles & Harris-Bowlsbey (2005) が提唱するキャリア・プランニング・プロセスの第一段階に位置付けられており、主体性を求められるキャリア開発にとって、最も基本的な要素である。大学生活は原則4年間しかなく、3年次及び4年次の学びは、ほぼインターンシップや各種実習教育等、いわば「勤務体験」をとおした実学である。その段階に至るまでに、少なくともキャリアに対する意思決定の必要性またはキャリア不決断 (Career Indecision: CI) のリスクについて認識させておく必要がある。

こうしたキャリア開発に関連する概念を用いて、大学における就職・キャリア支援の方向性を検討する際に留意すべきは、現代の大学生を取り巻く環境の多様性である。各家庭の社会・経済状況や家族からの影響、アルバイト経験や成育歴等、大学生のキャリア開発に対して副次的に影響を及ぼす可能性のある要因は様々である。しかし、あくまで大学が担う教育課程や課外活動によって及ぼされる影響について検討するため、研究対象とする要因を統制する必要がある。教育課程と就職・キャリア支援の関係については、ファカルティ・ディベロップメント (Faculty Development: FD) 活動において授業アンケート等の効果測定が行われている。一方、課外活動との関係、影響については十分な検討は行われてこなかった。そこで本研究では、CA, CR, 及びCIの概念を用いて、大学生のキャリア意向に影響を及ぼす要因について、特に課外活動に焦点を当てて検討を行った。

2. 方法

(1) 対象者

広島文化学園大学人間健康学部スポーツ健康福祉学科の在学学生全509名に対して調査を行い、回

答のあった1年生127名, 2年生91名, 3年生67名, 4年生48名(回収率65.4%)を分析対象とした。

(2) 調査項目

1) 課外活動

本研究では, 大学の教育活動に関連する課外活動として, 指定強化クラブ(野球部, サッカー部, ダンス部, 硬式テニス部, 男子バスケットボール部, 女子バスケットボール部, 陸上競技部, バドミントン部), はなまるキッズ(HBG重度・重複障害児スポ・レク活動教室), 及び福祉有償インターンシップ(広島県済生会たかね荘, たかね荘こやうら, 放課後等デイサービスハピネス, 広島原爆養護ホーム矢野おりづる園)を位置づけ, 2021年9月21日現在, それらの活動に所属・従事している場合を「所属」として位置づけた。

2) 大学生を対象にしたキャリア・アダプティビティ尺度

本研究では, CAに関連する要因を検討するため, 北村(2021)が作成し妥当性及び信頼性の検証がなされている「大学生を対象としたキャリア・アダプタビリティ尺度」を用いた。この尺度は, 「将来に向けていつも備えている」, 「人生で困難に直面しても乗り越えられる」といった14の質問項目で構成されており, 「未来自信」, 「好奇心」, 及び「自己決定」といった三つの下位尺度で検討することができる。尺度得点が高いほど, キャリア形成における適応性が高いと解釈する。本研究では, 「まったくそう思わない」, 「あまりそう思わない」, 「どちらともいえない」, 「ややそう思う」, 及び「非常にそう思う」の5件法で回答を求めた。

3) 大学生のキャリアレジリエンス尺度

本研究では, CRに関連する要因を検討するため児玉(2017)が作成した「大学生のキャリアレジリエンス尺度」を用いた。この尺度は, 「困難なことでも前向きに取り組むことができる」, 「新しいことを学ぶ意欲をもっている」といった34の

質問項目で構成されており, 「問題対応力」, 「ソーシャルスキル」, 「新奇・多様性」, 「未来志向」, 及び「援助志向」といった五つの下位尺度で検討することができる。尺度得点が高いほど, キャリア形成におけるレジリエンスが高いと解釈する。本研究では, 「まったく当てはまらない」, 「やや当てはまらない」, 「やや当てはまる」, 及び「非常によく当てはまる」の4件法で回答を求めた。

4) キャリア意思決定尺度

本研究では, CIに関連する要因を検討するため清水ら(2007)が作成した「キャリア意思決定尺度」を用いた。この尺度は, 「自分が, 職業として, どのようなことをやりたいのかわからない」, 「何もせずに, 今のままでいたい」といった42の質問項目で構成されており, 「情報・自信不足」, 「決定不安」, 「葛藤」, 「モラトリアム」, 「相談希求」, 「逃避」, 及び「障害不安」といった七つの下位尺度で検討することができる。尺度得点が高いほど, キャリア不決断の傾向が強いと解釈でき, ネガティブな評価となる。本研究では, 「そう思わない」, 「あまりそう思わない」, 「ややそう思う」, 及び「そう思う」の4件法で回答を求めた。

(3) 統計的处理

各尺度得点は, 先行研究に基づきスコアリングを行い, 学年毎の平均値及び標準偏差を求めた。次に, 学年進行毎のCA, CR, 及びCIの下位尺度得点の平均に差があるかを検証するために, 説明変数を学年, 目的変数を各下位尺度得点とする一要因分散分析を行い, 多重比較はBonferroni法で求めた。続いて, CA, CR, 及びCIの各下位尺度得点と学年, 性別, 及び課外活動の関連を確認するために, 各下位尺度得点を目的変数とする重回帰分析(強制投入法)を行った。有意水準はそれぞれ5%未満とし, 解析には無償の統計解析プログラムHAD version 17.202(清水, 2016)を使用した。

（４）倫理的配慮

本研究は、広島文化学園大学人間健康学部研究倫理指針に則って計画し、人間健康学部研究倫理委員会の承認を得て行った（承認番号：HS-2021003）。

３．結果

（１）対象者の概要

対象者の概要をTable 1に示す。学生総数509名

のうち回答は333名であり、回答率は全体の65.4％に留まった。学年別では年次が上がるごとに回答率は低下した。性別では女性の回答率が男性を上回った。課外活動では所属する者の回答率が所属しないものを上回った。

（２）キャリア・アダプタビリティ、キャリアレジリエンス、及びキャリア不決断と学年の関係

Table 2-1にCA尺度得点、Table 2-2にCR尺度得点、Table 2-3にCI尺度得点及び質問項目を示す。

Table 1 対象者の概要					
	学生総数	回答		無回答	
全体	509	333	65.4%	176	34.6%
学年					
1年生	128	127	99.2%	1	0.8%
2年生	145	91	62.8%	54	37.2%
3年生	116	67	57.8%	49	42.2%
4年生	120	48	40.0%	72	60.0%
性別					
男性	416	260	62.5%	156	37.5%
女性	93	73	78.5%	20	21.5%
課外活動					
所属	293	198	67.6%	95	32.4%
無所属	216	135	62.5%	81	37.5%

Number, %

Table 2-1 対象者のキャリア・アダプタビリティ尺度得点					
質問項目	下位尺度	1年 (N=127)	2年 (N=91)	3年 (N=67)	4年 (N=48)
1 将来に向けていつも備えている	未来自信	3.31 ± 0.93	3.20 ± 0.83	3.54 ± 1.00	3.85 ± 0.87
2 人生で困難に直面しても乗り越えられる		3.69 ± 0.90	3.41 ± 0.82	3.79 ± 0.81	3.79 ± 0.94
3 将来のことはあまり考えたくない(※)		3.65 ± 1.07	3.30 ± 1.09	3.36 ± 1.28	3.27 ± 1.22
4 将来の目標から逆算して今を考える		3.28 ± 1.04	3.14 ± 0.94	3.42 ± 1.02	3.33 ± 1.02
5 物事を粘り強くやり遂げることができる		3.85 ± 0.88	3.69 ± 0.89	3.90 ± 0.78	4.08 ± 0.90
6 難しい問題でも解決できる		3.28 ± 0.83	3.24 ± 0.82	3.57 ± 0.78	3.38 ± 0.96
7 新しいスキルはすぐに身につけられるほうだ		3.35 ± 1.04	3.43 ± 0.93	3.57 ± 0.84	3.38 ± 0.96
8 決める前には、いろいろな選択肢を検討するほうだ	好奇心	3.69 ± 0.91	3.78 ± 0.92	3.94 ± 0.83	3.94 ± 0.81
9 世の中の変化や自分を取り巻く環境に関心を持っている		3.61 ± 0.93	3.49 ± 0.94	3.78 ± 0.92	3.67 ± 0.88
10 自分自身の成長につながるチャンスを探している		4.00 ± 0.85	3.81 ± 0.74	3.91 ± 0.92	4.06 ± 0.76
11 他人の行動を観察し、自分に活かす	自己決定	4.09 ± 0.80	3.71 ± 0.89	4.03 ± 0.89	4.00 ± 0.90
12 自分の将来については自分でかじを取る		3.86 ± 0.86	3.76 ± 0.83	3.91 ± 0.77	3.94 ± 0.86
13 大事な決断は自分の信念に従っておこなう		3.95 ± 0.92	3.68 ± 0.80	3.87 ± 0.78	4.00 ± 0.95
14 結果がどうであっても自分の決断には納得する		3.66 ± 1.03	3.51 ± 0.91	3.75 ± 0.91	3.56 ± 0.99

Mean ± SD.

Table 2-2 対象者のキャリアレジリエンス尺度得点

質問項目	下位尺度	1年 (N=127)	2年 (N=91)	3年 (N=67)	4年 (N=48)
1 自身が所属している組織に新しく入ったメンバーと一緒に作業することにためらうことがない		2.98 ± 0.80	2.91 ± 0.84	2.93 ± 0.78	3.13 ± 0.82
2 困ったことがあったら周りの人に援助を求めることができる		3.06 ± 0.73	3.01 ± 0.75	3.13 ± 0.63	3.00 ± 0.80
3 自分に任せられたことで何か問題が起きても、自分なりの方法で乗り越えることができる		2.98 ± 0.63	2.85 ± 0.71	3.01 ± 0.56	3.00 ± 0.58
4 困難なことでも前向きに取り組むことができる		3.00 ± 0.68	2.87 ± 0.69	3.03 ± 0.65	2.83 ± 0.66
5 自分が任せられたことをする際、できるだけよい方法をしっかり検討して取り組むほうである		3.13 ± 0.65	3.04 ± 0.61	3.19 ± 0.58	3.21 ± 0.68
6 うまくいくかわからない様な役割も受け入れることができる	問題対応力	2.85 ± 0.72	2.77 ± 0.63	2.87 ± 0.67	2.75 ± 0.73
7 あなたにとって、目標は確実に達成することができるものよりも難しいものの方がよい		2.71 ± 0.86	2.64 ± 0.84	2.72 ± 0.77	2.73 ± 0.84
8 自分が任せられていたことでしんどいことがあると、それを続けていくことが難しい方である (※)		3.39 ± 0.73	3.37 ± 0.75	3.37 ± 0.79	3.56 ± 0.74
9 環境の変化に適応できる方である		2.83 ± 0.82	2.84 ± 0.75	3.03 ± 0.65	2.92 ± 0.71
10 環境の変化や自分の役割の変化を受け入れることができる		3.04 ± 0.69	2.90 ± 0.63	3.07 ± 0.61	2.98 ± 0.67
11 周囲の変化に柔軟に対応できる方である		2.99 ± 0.75	2.88 ± 0.65	2.99 ± 0.71	2.90 ± 0.69
12 困ったとき、ふさぎこまないで次の手を考える		3.02 ± 0.68	2.85 ± 0.67	2.94 ± 0.57	2.92 ± 0.68
13 どんなことでも、たいていなんとかなりそうな気がする		3.15 ± 0.71	3.01 ± 0.75	3.09 ± 0.67	3.15 ± 0.77
14 人を笑わせるのが得意である		2.82 ± 0.89	2.71 ± 0.86	2.84 ± 0.81	2.75 ± 0.89
15 面白く話をするのが得意である		2.74 ± 0.86	2.67 ± 0.88	2.79 ± 0.75	2.60 ± 0.89
16 ユーモアを言うのが苦手である		2.33 ± 0.86	2.56 ± 0.79	2.45 ± 0.84	2.40 ± 0.89
17 自分から人と親しくなるのが得意である		2.72 ± 0.89	2.71 ± 0.87	2.79 ± 0.83	2.79 ± 0.80
18 他の人と共感的に関わりあえる方である	ソーシャル スキル	3.06 ± 0.68	2.99 ± 0.74	3.03 ± 0.70	3.06 ± 0.81
19 相手に自分の感情を素直に表せる		2.95 ± 0.83	2.96 ± 0.77	2.96 ± 0.84	2.73 ± 0.89
20 交友関係が広く、社交的な方である		2.70 ± 0.92	2.66 ± 0.83	2.79 ± 0.81	2.77 ± 0.72
21 悩みがあるとき、他の人に相談している		2.92 ± 0.82	2.95 ± 0.81	3.00 ± 0.82	2.73 ± 0.84
22 いざという時のために、組織のなかで影響力を持っている人とのコネクションを保とうとしている		2.81 ± 0.73	2.77 ± 0.70	2.88 ± 0.66	2.81 ± 0.76
23 新しいことや珍しいことが好きである		3.20 ± 0.71	3.04 ± 0.71	3.01 ± 0.79	3.19 ± 0.67
24 色々なことを知りたいと思っている		3.35 ± 0.61	3.24 ± 0.69	3.28 ± 0.67	3.33 ± 0.72
25 ものごとに対する興味や関心が強い方だ	新奇・多様性	3.22 ± 0.73	3.01 ± 0.84	3.15 ± 0.63	3.17 ± 0.69
26 色々なことにチャレンジするのが好きである		3.16 ± 0.75	3.00 ± 0.70	2.91 ± 0.75	3.04 ± 0.80
27 新しいことを学ぶ意欲をもっている		3.17 ± 0.69	2.96 ± 0.70	3.12 ± 0.77	3.08 ± 0.71
28 自分に任せられたことは自分の力でやり遂げようと努力する		3.28 ± 0.61	3.04 ± 0.70	3.18 ± 0.65	3.38 ± 0.67
29 自分の将来に希望をもっている		3.04 ± 0.85	2.86 ± 0.84	2.94 ± 0.78	3.08 ± 0.85
30 あなたの将来の見通しは明るいと思う	未来志向	2.93 ± 0.80	2.82 ± 0.81	2.84 ± 0.83	2.96 ± 0.80
31 自分の将来にはきっといいことがあると思う		3.22 ± 0.76	2.92 ± 0.78	2.94 ± 0.78	3.13 ± 0.73
32 自分には誇れるところがあまりないと思う (※)		3.40 ± 0.91	3.20 ± 0.75	3.33 ± 0.70	3.48 ± 0.74
33 思いやりを持って人と接している	援助志向	3.37 ± 0.65	3.25 ± 0.66	3.24 ± 0.68	3.35 ± 0.60
34 他人に対して親切な方である		3.37 ± 0.61	3.26 ± 0.59	3.27 ± 0.59	3.27 ± 0.68

Mean ± SD.

Table 2-3 対象者のキャリア・アダプタビリティ尺度得点

質問項目	下位尺度	1年 (N=127)	2年 (N=91)	3年 (N=67)	4年 (N=48)
1 自分の興味や関心がよくわからないので、将来の職業が決まらない	情報・自信不足	2.07 ± 0.88	2.64 ± 0.98	2.48 ± 0.91	2.25 ± 1.02
2 自分が、職業として、どのようなことをやりたいのかわからない		2.02 ± 0.90	2.59 ± 0.98	2.51 ± 0.89	2.29 ± 1.09
3 自分の能力や適性がよくわからないので、将来の職業が決まらない		2.20 ± 0.94	2.70 ± 0.92	2.51 ± 0.89	2.29 ± 1.05
4 自分に何が向いているかわからないので、職業を決められない		2.21 ± 1.00	2.70 ± 0.99	2.51 ± 0.91	2.27 ± 0.96
5 どのようにして職業を決めればよいかわからない		2.26 ± 0.99	2.69 ± 1.02	2.70 ± 0.89	2.23 ± 1.08
6 進路先を決めるために必要な具体的な情報がないので、将来の職業が決められない		2.19 ± 0.92	2.65 ± 0.95	2.55 ± 0.89	2.21 ± 0.87
7 職業決定のことを考えると、不安を感じる	決定不安	2.74 ± 1.00	2.90 ± 0.96	2.79 ± 0.84	2.71 ± 1.07
8 就職先を決めることのむずかしさを考えると不安になる		2.74 ± 0.99	2.89 ± 0.92	2.76 ± 0.87	2.75 ± 1.08
9 将来、職業を決めることがうまくいくかどうか不安である		2.78 ± 1.01	2.99 ± 0.96	2.82 ± 0.85	2.77 ± 1.02
10 将来の職業のことを考えると気が滅入ってくる		2.46 ± 0.94	2.73 ± 0.92	2.58 ± 0.87	2.52 ± 1.01
11 希望する職業への準備が十分であるかどうか不安である		2.72 ± 0.96	2.90 ± 0.86	2.72 ± 0.87	2.77 ± 0.90
12 将来の職業を決めることに対して不安がある		2.47 ± 0.94	2.77 ± 0.97	2.72 ± 0.85	2.65 ± 1.00
13 魅力ある職業がいくつもあるので、将来の職業を決められない	葛藤	2.18 ± 0.81	2.53 ± 0.91	2.34 ± 0.79	2.08 ± 0.82
14 可能性のある将来の職業がたくさんあるので、どれにしたらよいのかわからない		2.17 ± 0.86	2.64 ± 0.90	2.51 ± 0.91	2.13 ± 0.87
15 いろいろなことに興味があるので、どの職業を選んだらよいのかわからない		2.14 ± 0.88	2.64 ± 0.94	2.51 ± 0.88	2.06 ± 0.89
16 いろいろ考えすぎて、自分に合う職業を決められない		2.28 ± 0.97	2.70 ± 0.88	2.60 ± 0.89	2.25 ± 1.00
17 職業の選択肢がたくさんあるので、迷ってしまう		2.17 ± 0.88	2.49 ± 0.87	2.51 ± 0.89	2.08 ± 0.94
18 いろいろ考えすぎて、どの職業を選べばよいのかわからない		2.19 ± 0.92	2.75 ± 0.89	2.67 ± 0.89	2.31 ± 1.03
19 職業のことなど考えずに、自分の好きなことに集中したい	モラトリアム	2.69 ± 0.92	2.80 ± 0.82	2.72 ± 0.83	2.73 ± 0.96
20 いつまでも仕事をしないで遊んで暮らせたらいいのと思う		2.57 ± 1.08	2.70 ± 0.98	2.70 ± 1.03	2.58 ± 1.09
21 将来、職業につかずに、好きなことをしたい		2.31 ± 1.03	2.41 ± 1.04	2.31 ± 1.06	2.27 ± 1.01
22 束縛されずに自由でいたいと思うので、定職には就きたくない		1.98 ± 0.93	2.05 ± 0.98	2.06 ± 0.92	1.77 ± 0.90
23 就職しないでいつまでも今の状態でいられたらいいのと思う		2.36 ± 1.04	2.46 ± 1.01	2.36 ± 1.07	2.44 ± 1.07
24 何もせずに、今のままでいたい		2.35 ± 1.06	2.31 ± 1.09	2.24 ± 1.02	2.35 ± 1.12
25 今までも重要な問題は親などと相談してきたので、職業選択の問題でも相談したい	相談希求	2.80 ± 0.92	2.93 ± 0.84	2.87 ± 0.80	2.75 ± 1.00
26 職業選択の問題は重要なことなので、誰かと相談したい		2.89 ± 0.88	3.08 ± 0.81	2.99 ± 0.77	2.85 ± 0.92
27 将来の職業について、誰かと相談をしたい		2.96 ± 0.89	3.16 ± 0.73	3.04 ± 0.77	2.85 ± 0.95
28 自分だけでは、職業は決定できない		2.49 ± 1.00	2.68 ± 0.96	2.67 ± 0.89	2.50 ± 1.03
29 自分一人では何かを決めた経験が少ないので、将来の職業について、誰かと相談をしたい		2.53 ± 0.93	2.63 ± 0.93	2.70 ± 0.78	2.50 ± 0.99
30 自分一人では何かを決めた経験が少ないので、誰かにアドバイスを求めたい		2.65 ± 0.91	2.76 ± 0.91	2.85 ± 0.86	2.52 ± 0.95
31 将来の職業のことを真剣に考えたことがない	逃避	1.97 ± 0.84	2.30 ± 1.01	2.30 ± 0.95	1.77 ± 0.86
32 いままであまり職業のことをまじめに考えたことがない		2.06 ± 0.91	2.26 ± 0.99	2.25 ± 0.97	1.85 ± 0.87
33 将来の職業については、考える意欲が全くわからない		1.95 ± 0.91	2.23 ± 0.93	2.22 ± 0.97	1.67 ± 0.81
34 将来のことはわからないから、職業のことは考えたくない		1.95 ± 0.82	2.21 ± 0.89	2.16 ± 0.91	1.85 ± 0.90
35 自分が将来どうなるかわからないのだから、いま職業のことを考えても、意味がないと思う		1.95 ± 0.90	2.22 ± 0.93	2.19 ± 0.94	1.83 ± 0.95
36 将来の職業のために積極的に努力するよりは、チャンスを待つほうがよい		2.05 ± 0.88	2.26 ± 0.93	2.22 ± 0.83	2.06 ± 0.95
37 具体的な将来の職業を考えているが、採用試験が心配である	障害不安	2.78 ± 1.03	2.92 ± 0.87	2.90 ± 0.68	2.58 ± 0.99
38 将来の職業についての希望は明確なのだが、採用試験に自信がない		2.75 ± 1.04	2.70 ± 0.85	2.84 ± 0.75	2.52 ± 0.99
39 何かの影響で希望する職業につくことができなくなるのではないかと心配になる		2.57 ± 1.01	2.84 ± 0.85	2.76 ± 0.80	2.46 ± 0.92
40 思わぬことで希望する職業につくことができないかもしれないと不安である		2.52 ± 1.01	2.70 ± 0.85	2.67 ± 0.81	2.44 ± 0.90
41 希望する職業はあるのだが、これが最良なのかどうか不安である		2.55 ± 1.01	2.63 ± 0.94	2.73 ± 0.77	2.46 ± 0.85
42 将来の職業について希望はあるが、周りが反対するのではないかと心配である		2.05 ± 0.99	2.30 ± 0.92	2.31 ± 0.89	1.81 ± 0.87

Mean ± SD.

Table 3は、説明変数を学年、目的変数をCA、CR、及びCIの下位尺度得点とする一要因分散分析の結果である。CAでは、未来自信にのみ学年の有意な主効果が認められた ($p<.05$)。多重比較の結果、2年生の平均点が、3年生及び4年生よりも有意に低いことが示された。CRでは全ての下位尺度得点に有意差がみられなかった。CIでは、情報・自信不足 ($p<.001$)、葛藤 ($p<.001$)、逃避 ($p<.01$)、及び障害不安 ($p<.05$) の下位尺度得点に学年の有意な主効果が認められた。多重比較の結果、障害情報・自信不足及び葛藤は1年生の平均点が2年生及び3年生よりも有意に低値であったが、4年生との有意差がみられなかった。逃避と障害不安は、4年生の平均点が2年生及び3年生よりも有意に低値であった。

(3) 重回帰分析の結果

Table 4-1に大学生を対象としたキャリア・アダ

プタビリティ尺度の下位尺度得点に対する重回帰分析の結果を示す。課外活動への所属は、未来自信にのみ有意な正の説明変数として示された。性別は、男性を1、女性を2として分析したところ、未来自信と自己決定に有意な負の関連が確認された。

Table 3-2に大学生のキャリアレジリエンス尺度の下位尺度得点に対する重回帰分析の結果を示す。課外活動への所属は、問題対応力、ソーシャルスキル、新奇・多様性、及び援助志向に有意な正の説明変数として示された。性別は、問題対応力と未来志向に有意な負の関連が確認された。

Table 3-3にキャリア意思決定尺度の下位尺度得点に対する重回帰分析の結果を示す。課外活動への所属は、情報・自信不足、モラトリアム、及び障害不安に有意な説明変数として示された。性別は、決定不安にのみ有意な関連が確認された。

Table 3 各下位尺度得点と学年

下位尺度	1年 (N=127)	2年 (N=91)	3年 (N=67)	4年 (N=48)	F値
キャリア・アダプタビリティ					
未来自信 (range, 7-35)	24.40 ± 4.19	23.41 ± 4.25	25.13 ± 4.19	25.08 ± 4.92	2.65 *
好奇心 (range, 4-20)	15.40 ± 2.56	14.80 ± 2.74	15.66 ± 2.82	15.67 ± 2.59	1.81
自己決定 (range, 3-15)	11.47 ± 2.19	10.95 ± 2.08	11.52 ± 2.13	11.50 ± 2.34	1.40
キャリアレジリエンス					
問題対応力 (range, 13-52)	39.13 ± 5.19	37.93 ± 5.73	39.37 ± 5.06	39.06 ± 6.08	1.20
ソーシャルスキル (range, 9-36)	25.06 ± 4.48	24.98 ± 4.59	25.52 ± 4.68	24.65 ± 4.60	0.37
新奇・多様性 (range, 6-24)	19.36 ± 3.04	18.30 ± 3.46	18.66 ± 3.46	19.19 ± 3.50	2.07
未来志向 (range, 4-16)	12.59 ± 2.55	11.80 ± 2.39	12.04 ± 2.51	12.65 ± 2.47	2.32
援助志向 (range, 2-8)	6.74 ± 1.18	6.52 ± 1.18	6.51 ± 1.19	6.63 ± 1.18	0.88
キャリア不決断					
情報・自信不足 (range, 6-24)	12.94 ± 5.02	15.98 ± 5.40	15.25 ± 4.88	13.54 ± 5.52	7.20 ***
決定不安 (range, 6-24)	15.91 ± 5.04	17.18 ± 4.76	16.39 ± 4.47	16.17 ± 5.46	1.22
葛藤 (range, 6-24)	13.13 ± 4.47	15.75 ± 4.51	15.13 ± 4.51	12.92 ± 4.86	8.06 ***
モラトリアム (range, 6-24)	14.26 ± 4.49	14.74 ± 4.74	14.39 ± 4.90	14.15 ± 4.47	0.25
相談希求 (range, 6-24)	16.31 ± 4.21	17.24 ± 3.78	17.12 ± 3.54	15.98 ± 4.86	1.65
逃避 (range, 6-24)	11.94 ± 4.18	13.48 ± 4.76	13.36 ± 4.72	11.04 ± 4.64	4.56 **
障害不安 (range, 6-24)	15.22 ± 4.70	16.09 ± 4.05	16.21 ± 3.25	14.27 ± 4.30	2.77 *

Mean ± SD, *** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$.

Table 4-1 キャリア・アダプタビリティの下位尺度における重回帰分析結果

	未来自信				好奇心				自己決定		
	B	SE B	β		B	SE B	β		B	SE B	β
学年	0.368	0.221	0.091 +		0.137	0.138	0.055		0.066	0.111	0.032
性別	-1.452	0.572	-0.138 *		-0.417	0.357	-0.065		-0.818	0.287	-0.156 **
課外活動	1.001	0.476	0.114 *		0.458	0.297	0.084		0.404	0.239	0.092 +
R^2		0.038	**		0.014				0.033	*	

B: 偏回帰係数, SE B: 偏回帰係数の標準誤差, β : 標準偏回帰係数, R^2 : 決定係数, *** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$, + $p < .10$

Table 4-2 キャリアレジリエンスの下位尺度における重回帰分析結果

	問題対応力				ソーシャルスキル				新奇・多様性				未来志向		
	B	SE B	β		B	SE B	β		B	SE B	β		B	SE B	β
学年	0.152	0.277	0.030		-0.003	0.234	-0.001		-0.094	0.169	-0.030		-0.019	0.128	-0.008
性別	-2.132	0.717	-0.162 **		-0.481	0.605	-0.044		-0.716	0.438	-0.089		-0.719	0.332	-0.119 *
課外活動	1.242	0.596	0.113 *		1.208	0.503	0.131 *		1.143	0.364	0.170 **		0.460	0.276	0.091 +
R^2		0.039	**		0.019	+			0.039	**			0.023	+	

	援助志向		
	B	SE B	β
学年	-0.060	0.060	-0.055
性別	0.028	0.156	0.010
課外活動	0.336	0.130	0.141 *
R^2		0.023	+

B: 偏回帰係数, SE B: 偏回帰係数の標準誤差, β : 標準偏回帰係数, R^2 : 決定係数, *** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$, + $p < .10$

Table 4-3 キャリア不決断の下位尺度における重回帰分析結果

	情報・自信不足				決定不安				葛藤				モラトリアム		
	B	SE B	β		B	SE B	β		B	SE B	β		B	SE B	β
学年	0.403	0.272	0.081		0.034	0.252	0.007		0.169	0.242	0.039		0.040	0.237	0.009
性別	0.535	0.705	0.042		1.543	0.652	0.130 *		0.564	0.626	0.050		-1.179	0.613	-0.106 +
課外活動	-1.175	0.587	-0.109 *		-0.897	0.542	-0.090 +		-0.601	0.521	-0.063		-1.031	0.510	-0.110 *
R^2		0.021	+		0.026	*			0.009				0.023	+	

	相談希求				逃避				障害不安		
	B	SE B	β		B	SE B	β		B	SE B	β
学年	-0.013	0.211	-0.004		0.018	0.236	0.004		-0.113	0.218	-0.028
性別	0.760	0.546	0.077		-0.970	0.610	-0.088		0.470	0.564	0.046
課外活動	-0.142	0.454	-0.017		-0.949	0.508	-0.102 +		-1.017	0.469	-0.118 *
R^2		0.006			0.018				0.017		

B: 偏回帰係数, SE B: 偏回帰係数の標準誤差, β : 標準偏回帰係数, R^2 : 決定係数, *** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$, + $p < .10$

4. 考察

(1) 学年進行とキャリア支援

本研究では、CA、CR、及びCIの概念を用いて、大学生のキャリア意向に影響を及ぼす要因について検討を行った。

Table 3で示すように、CA、CR、及びCIの得点は、学年進行に沿って改善するような単純な関係ではなかった。CAに含まれる未来自信は、2年生が有意で低値であった。従来、大学2年生は「中だるみの学年」といわれ、緊張感が緩みやすい等、印象論で語られ、根性論で処理されることが多かった。しかし、質問項目をみると自らの備えや困難への対処能力への不安が当該得点を構成している。将来予測、準備、及び不安軽減を促進させるような働きかけが適当であることが明らかとなった。このことは、CIについても同様である。今回使用したキャリア意思決定尺度は、高得点になるほどキャリア不決断の度合いが高く示される尺度であり、2年生の情報・自信不足、葛藤、逃避、障害不安の得点が有意に高かった。「自分にはこの進路があっているのか」といった葛藤や「忙しいから、できない」、「厳しい情勢だから、自分では乗り越えられない」といった逃避及び障害不安に対する対処を講じる必要があることから、一方的な情報提供では不十分であり、カウンセリングマインドはもちろん、それに加えて明確かつ具体的な根拠、上級生等の成果を示しながら、支援することが有効であるものと考えられる。

(2) ジェンダーギャップを考慮したキャリア支援

各下位尺度得点を目的変数とする重回帰分析の結果、CAにおける未来自信及び自己決定、CRにおける問題対応力及び未来志向において、性別が有意な負の説明変数であることが示された。さらに、CIにおける決定不安において性別が不決断の得点を上昇させる有意な説明変数であった。こうした性別つまり女性であることによる有意差は、個人特性だけではなく、社会的側面つまり就職活

動・キャリア開発におけるジェンダーギャップの観点を併せて、慎重に解釈する必要がある。人間健康学部の男女比は、男性416名(81.7%)対93名(18.3%)である。本調査の男女別の回答率をみると、女性が15ポイント以上も男性を上回っており、就職活動・キャリア開発への誠実さ及び積極性がうかがえる。しかし、質問項目からは、環境面で選択肢が少ない、将来の展望やロールモデルが得られにくい、将来の職業を決めることへの不安等が、キャリア不決断得点を引き上げているため、従来いわれてきたような「女性は真面目である」、「女性は将来に備える特性をもっている」といった抽象論ではなく、女性が晒されているジェンダーギャップの軽減を考慮した就職・キャリア支援の必要性が示されているものと考えられる。

(3) 課外活動所属とキャリア支援

重回帰分析の結果、課外活動への所属がCA及びCRにおける多くの下位尺度得点に好影響を及ぼす有意な説明変数であることが確認された。学生の未来自信や問題対応力、ソーシャルスキル、新奇・多様性、援助志向は、学生間や学外のステークホルダーとの関係構築を基盤とする課外活動を通して、日常的に刺激され強化されうるものであるのかもしれない。併せて、CIにおいても、課外活動への所属は、情報・自信不足、モラトリアム、障害不安といったキャリア不決断の下位尺度得点を有意に低減させる説明変数であった。課外活動は、授業だけでは関わることがない同級生や上・下級生、応援してくれる学外者等との人間関係を醸成する。こうした人間関係を通して、情報やロールモデルの獲得、不安の低減、実践を介した対話等の機会を得ている可能性がある。本学部の課外活動は、スポーツ、健康、福祉に関連するものであり、教育内容と密接に関係するものである。こうした多分野連携教育と課外活動が、大学生のCA及びCRの向上とCIの低減に好影響をもたらしていることは、学部設置の趣旨に適う結果であると言えよう。

但し、学年進行にしたがって回答率は下がっており、全ての学部生が回答しているわけではない。CA及びCR得点が高く、CI得点が低い学生が比較的多く回答し、就職活動・キャリア開発の意欲が湧かない学生、調査そのものに抵抗感をもつ学生が、本調査に回答していない可能性が否定できない。この調査結果をもって全体を解釈することには慎重である必要がある。

5. 結論

本研究では、学年、性別、課外活動への所属が、大学生のキャリア・アダプタビリティとキャリアレジリエンス、キャリア不決断に及ぼす影響を検討した。その結果、2年次及び女性への配慮の必要性とともに、課外活動がキャリア・アダプタビリティとキャリアレジリエンス、キャリア不決断を改善することが示唆された。教育内容の充実と併せて、課外活動への参加状況を踏まえた就職・キャリア支援に向けて更なる改善を行う必要がある。

謝辞

本調査に協力いただいた学生の皆さんに感謝する。

参考文献

- 1) Arthur, M. B, Hall, D. T., & Lawrence, B. S. (1989) *Generating New Directions in Career Theory: The Case for a Transdisciplinary Approach*. In M. B. Arthur, D. T. Hall & B. S. Lawrence (eds.), *Handbook of Career Theory* (p.7-25). Cambridge, UK: Cambridge University Press.
- 2) Niles, S. G., & Harris-Bowlsbey, J. (2005). Evaluation of career planning services. *Career Development Interventions in the 21st Century*, 410-423.
- 3) Savickas, M. L., & Porfeli, E. J. (2012). Career Adapt-Abilities Scale: Construction, reliability, and measurement equivalence across 13 countries. *J. Vocat. Behav.*, 80(3), 661-673.
- 4) 北村雅昭 (2021). 大学生を対象としたキャリア・アダプタビリティ尺度の開発. *ビジネス実務論集*, 39, 1-10.
- 5) 児玉真樹子 (2015). キャリアレジリエンスの構成概念の検討と測定尺度の開発. *心理学研究*, 86(2), 150-159.
- 6) 児玉真樹子 (2017). 大学生用キャリアレジリエンス測定尺度の開発. *学習開発学研究*, (10), 15-23.
- 7) 清水和秋, 花井洋子 (2007). キャリア意思決定尺度の開発その1: 大学生を対象とした探索的因子分析からの尺度構成. *関西大学社会学部紀要*, 38(3), 97-118.